

乳幼児期はライフステージの始まりであり、一生の中で最も発達する特徴的な時期です。このDVDでは、生まれてから6歳までの時期をいくつかの区切って、それぞれの段階にどのよう

な特徴があるのかを実際の子どもの映像を中心に見ていき、この時期における子どもたちについて正しい知識を持つことをねらいとします。

映像の項目・内容	指導・支援の内容、ポイント
<p>オープニング</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 生後1年未満の子どもは「乳児」(その中でも生まれて28日未満は「新生児」)、生後1年から小学校に入学するまでは「幼児」と称される時期である。 ◇ ここでの定義以外に一般的に用いられる「赤ちゃん」という表現は、生徒にとってどのくらいの年齢までのイメージだろうか。視聴前に「赤ちゃんとはどの時期のことを指すのか」といった問いかけをしてみてもよい。 ◇ 本DVDに収録された子どもの映像は、あくまで「ある時期に見られる発達の例」として紹介している。クラスの中でも体格が様々なように、この時期の子どもの成長にも個人差があることは必ず押さえた上で視聴させたい。
<p>0歳児(新生児)の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 新生児の写真 ◆ 新生児の頭蓋骨 ◆ 原始反射 	<p><新生児の特徴とさまざまな原始反射を知る></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 生まれてきたばかりの新生児は、平均的な体重は3,000g、身長50cm、体型は4頭身で、仰向けにすると腕をW字型に、足はM字型に曲げており、腹式呼吸をしているのが特徴である。 ◇ 新生児の頭蓋骨には、触ってみると骨に隙間がある。それらは大泉門、小泉門と呼ばれる部分で、狭い産道を通して生まれてくる際に、うまく頭を変形させ頭が圧迫されることによるゆがみを吸収させる役割を果たしている。映像中の新生児の写真で、頭蓋骨が後ろにやや伸びている点にも着目させたい。 ◇ 新生児には、唇に触れたものをくわえようとする「吸てつ反射」、寝かせた赤ちゃんの頭を支えて少し起こし、急に手を緩めると、誰かに抱きつき守ってもらおうと手を突っ張る「モロー反射」、手のひらや足の指を刺激すると強い力で握る「把握反射」といった原始反射がある。新生児期以外にも、発達の過程で様々な原始反射が存在する。図書館やインターネットなどで調べて発表させるなどの活動も面白い。
<p>1～11か月頃の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 1～3か月頃の様子 ◆ 5～6か月頃の様子 ◆ 7～9か月頃の様子 ◆ 9～11か月頃の様子 	<p><1～11か月頃の乳児の特徴を知る></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 3か月を過ぎた頃から首がすわりはじめ、声を出して笑ったり、親とそれ以外の人の区別ができるようになる。人見知りをするようになるのもこの頃である。 ◇ これまで母乳や育児用ミルクなどによる乳汁栄養だったのが、幼児食への移行がはじまる。これを「離乳」といい、5～6か月頃がその時期とされている。離乳は、これまでの「吸う・飲む」から「咀嚼して飲み込む」という発達の過程であることをおさえたい。 ◇ 7～9か月、9～11か月頃になると寝返り、おすわり、はいはい、つかまり立ちなどをするようになるが、はいはいをしない、もしくは手を使わないはいはいだけを経てつかまり立ちをする子も少なくなく、こういった面でも「個人差」があることは、再度おさえておきたい。
<p>1歳頃～2歳頃の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 1歳頃の特徴 ◆ 2歳頃の特徴 	<p><1歳頃～2歳頃の発達の特徴を知る></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 1歳頃になると、ひとり立ち・ひとり歩きができるようになり、子どもの行動範囲が大きく広がるのが特徴的である。また、「一語文」と呼ばれるひとつの単語にいろいろな意味を込めた表現で言葉を発し始める。「あっこ」「だっち」などという「抱っこ」を意味する一語文は、そこに「抱っこしてほしい」という意図を含んでおり、文章で言えなくても親とのコミュニケーションの幅がぐっと広がるのもこの時期である。また、6か月健康診査では、「意味のある言葉をどれだけ話せるか」という項目があることを紹介してもよい。 ◇ 2歳になる前は一人での遊びが中心だったが、2歳を過ぎる頃には他の子が積み木遊びをしているそばで別々に積み木遊びをするといった「平行遊び」が見られるようになる。また、「二語文」を話せるようになるのもこの時期である。「二語文」とは、単語と単語を組み合わせた表現であり、この頃から使える単語が爆発的に増えていく。第一次反抗期が見られるのもこの時期である。
<p>3歳頃～4歳頃の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 3歳頃の特徴 ◆ 4歳頃の特徴 	<p><3歳頃～4歳頃の発達の特徴を知る></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 3歳くらいになると、はさみを使って紙を切ったり、箸を使ったりと、指を使った細かい動きができるようになる。また、2歳くらいの「平行遊び」から、2、3人でのおままごとやごっこ遊びなどに変化し、少しずつ遊びの和が広がっていくのもこの時期である。このような遊びは「連合遊び」と呼ばれ、役割分担やルールがまだはっきりしておらず、一緒には遊ぶものの全体的なまとまりがない状態とされている。 ◇ 4歳くらいになると、跳ねたり走ったりといった運動にも不安がなくなり、運動機能が一層発達すると同時に、だいたいの日常会話が話せるといった言語機能の発達も見られる。環境や個人差による違いはあるものの、着替えや手洗い、歯みがきなどの基本的な生活習慣の習得が見られる。
<p>5歳頃～6歳頃の特徴</p>	<p><5歳頃～6歳頃の発達の特徴を知る></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 5歳頃～6歳頃になってくると幼稚園・保育園では年長さんとして年下の子どもの世話などもできるようになる。運動能力が高まるのと同時に手先も器用になってくるのが特徴的である。 ◇ このDVDでは触れられなかったが、5、6歳から8歳にかけては人間の成長の中で一度だけ訪れる、神経系の発達が著しい「プレ・ゴールデンエイジ」と呼ばれる時期である。近年、こういった幼児期からスポーツ種目に専門的に取り組む子どもも多く見られるようになったが、この時期にはスポーツそのものの技術にこだわるのではなく、おにごっこ、木登り、ボール遊びなどの活動的な遊びが重要だとする調査研究もあることを紹介し、考えさせてみて面白い。
<p>エンディング</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ ここまでDVDを視聴してきて、乳幼児期は、それぞれの時期に特徴はありつつも発達を続けていることが理解できるはずである。子どもが病気にかかった際にはまず専門医である「小児科」を受診することなどを紹介しつつ、子どもは「小さな大人」ではなく、自分たちとは異なる存在として正しい知識をもつことの重要性を再確認したい。